宇部日報　2023年〈令和5年〉　5月10日 水曜日

創刊110周年記念

誇れるふるさと 24地区リレー

〈vol.22〉

＜新川② 課題とキーマン＞

三大行事を柱に一体感創出

ICT委員会立ち上げ、情報発信へ

「地域ぐるみで支え合う　明るく、住み良い、ふるさと新川」を目指す将来像に掲げる。多くの地域と同様、コミュニティーや自治会役員の後継者が不足。また、縦長に広がる地区は北部、南部、中央部で生活の実情が異なり、それぞれに抱える課題もばらばらという特徴がある。高齢者の単独世帯も増加傾向にあり、希薄化する近隣相互の関係づくりが大きなテーマとなっている。

三大行事の一つとなる夏祭りの様子（2022年7月、新川ふれあいセンターで）

山手側の住宅地は高齢化が進んでいるものの、マンションが多い中央部が全体の高齢化率を引き下げて地区全体の高齢化率は27％と市内でも低い。JR宇部新川駅周辺は再開発が計画されているが、空き地が増え次々に駐車場化している現状もある。地区コミュニティー推進協議会（見山友裕会長）は、そうした地域ごとの特性を把握することに努めながら、誰もが元気で安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいる。

協議会では、社会福祉、防犯、ふるさと運動など各部会がそれぞれに年間を通して活発に活動している。そうした中で地区の一体感を生む柱となっているのが、三大行事の「運動会」「夏祭り」「文化祭」。特に夏祭りは、子どもたちを中心に住民や地域団体が一堂に会する貴重な機会として、コロナ禍でも規模を縮小しながら開催するなどして大切に受け継がれている。

地域内には記念会館をはじめとする歴史的建造物や豊かな自然の資源があり、それらを生かしたにぎわいづくりにも力を入れる。既存のイベントだけでなく、真締川に架かる橋をすごろく形式で巡る「サイコロ歩き旅」など、今年度からの新しい企画も進めている。イベントを通じて地域資源に親しむ機会を増やし、人と人との交流を生むことで、地域力の強化につなげていく。

見山会長は、多彩に行われている活動の情報発信力の低さも一つの課題として挙げる。現在参加していない層にも興味を持ってもらおうと、今年度はICT（情報通信技術）を専門とする委員会の立ち上げを計画中。各部会の行事などの地域情報のプラットホームとなるサイトの制作を目指している。

「先人がつくってこられた組織の上で、時代に合わせて課題を少しずつ改善していくことで、魅力ある地域づくりに向かっていけたら」と話した。